直面する内憂外患の日本列島

パリ五輪で自衛隊体育学校の選手活躍

危険な暑さが相次いだ7月の全国の平均気温は、7月としては気象庁が統計を取り始めてから最も高くなりました。そしてその暑さは、8月も続きました。そのような中、8月8日16時43分頃に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。これを受けて岸田文雄総理大臣は、9日午後から予定した中央アジアとモンゴルへの訪問を取りやめました。戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の中、国内大地震の発生がより危惧される状況となっています。なお、フランスのパリで開催されたオリンピックにおいて日本選手団は、海外でのオリンピックとして最も多いメダルを獲得。自衛隊体育学校から出場した選手も3人が銀メダルを獲得しました。

防衛講堂でパリオリンピック選手による帰国報告（防衛省Web）

7月26日から8月11日まで、フランスのパリで開催された「パリオリンピック」で日本選手団は、金20・銀12・銅13の総数45個のメダルを獲得しました。日本勢の金メダル数とメダル総数は、海外開催のオリンピックでの歴代最多です。

このパリオリンピックには、自衛隊体育学校から7人の選手が出場しました。女子柔道70kg級の新添左季選手（2等陸尉）は、個人戦ではメダルを取ることができなかったものの、8月3日の混合団体戦では銀メダルの獲得に貢献しました。

また、レスリング男子フリースタイル74kg級の高谷大地選手（1等陸尉）は、8月11日、決勝で敗れたものの銀メダルを獲得。

同じく11日、近代五種の男子決勝では、佐藤大宗選手（2等海曹）がこの種目日本史上初となる銀メダルを獲得しました。

近代五種は、1人の選手が1日の間にフェンシング、水泳、馬術、レーザーラン（射撃+ラン）を行い、万能性を競う複合競技で、そのの過酷さから「キング・オブ・スポーツ」とも呼ばれています。

出場した選手たちは8月27日、木原稔防衛大臣らに帰国報告をしました。

防衛講堂で行われた帰国報告では選手を代表し高谷1尉が木原防衛大臣に申告。

木原防衛大臣は、選手たちが世界最高の舞台で全力を尽くし、日本国民に感動と勇気を届けたことを称賛しました。また、七嶋体育学校長や各競技の監督、コーチ、スタッフが選手たちの力を最大限に引き出すために尽力したことも高く評価し、その貢献を忘れてはならないと述べました。最後に、選手たちが今後もそれぞれの競技でさらなる活躍を遂げることを祈ると語り、労いの言葉をかけました。（関連記事8面）

日カンボジア防衛大臣会談
および日越防衛大臣会談

木原稔防衛大臣は、8月4日から7日の間、カンボジア（プノンペン）およびベトナム（ハノイ）を訪問し、日カンボジア防衛相会談および日越防衛相会談を行いました。

日カンボジア防衛大臣会談

カンボジアではティア・セイハー・カンボジア副首相兼国防大臣との会談を行い、今後も、日カンボジア防衛協力・交流を強化していくことで一致しました。

なお、両大臣は、昨年、日カンボジア外交関係樹立70周年の機会に両国関係が「包括的戦略的パートナーシップ」に格上げされたことを歓迎し、安全保障分野を含めて日カンボジアの協力関係がさらに強化されることへの期待を示すとともに、木原防衛大臣が昨年11月に打ち出した「防衛協力強化のための日ASEAN大臣イニシアティヴ・ジャスミン」も踏まえ、日ASEANを含む多国間協力を推進していくことでも一致しています。

また、木原防衛大臣は、カンボジアにおける国連平和維持活動の中で命を落とされた故中田厚仁氏（国連ボランティア）および故高田晴行警視（国連カンボジア暫定機構・文民警察官）の慰霊碑に献花をしました。

日越防衛大臣会談

ベトナムでは、ザン越国防大臣との会談を行い、二国間、多国間の防衛協力・交流を引き続き強化していくことで一致しました。

なお両大臣は、昨年末の日越首脳会談において「包括的戦略的パートナーシップ」に格上げされた日越二国間関係の下、ハイレベル交流、防衛装備・技術協力、能力構築支援や教育交流をはじめ、今後さらに両国の防衛協力・交流が幅広い分野において進展することへの期待を示しています。

巡閲を行う木原防衛大臣（防衛省Web）

軍事技術学院を訪問・視察（防衛省Web）

中古資材運搬車（防衛省Web）

また両大臣は、日越防衛装備品・技術移転協定に基づく初の防衛装備品の移転案件として、中古資材運搬車の譲渡に係る細目取極および防衛当局間取決めの署名を行いました。

この資材運搬車は、不整地における築城資材等の運搬のほか、災害時等には瓦礫等の運搬等において活動しています。今回、自衛隊法第116条の3に基づく無償譲渡として2台が譲渡されます。

なお、木原防衛大臣は、軍事技術学院を訪問し、視察を行うとともに防大卒業生との交流も行っています。

日米「2+2」東京都で開催

7月28日、日米安全保障協議委員会（日米「2+2」）が都内で開催され、日本側からは、上川陽子外務大臣および木原稔防衛大臣が、米側からは、アントニー・ブリンケン米国国務長官およびロイド・オースティン米国国防長官がそれぞれ出席しました。

その概要は以下の通りです。

拡大抑止に関する日米閣僚会合（外務省Web）

われわれの今日の決定が将来を決定づける重要な局面

◇冒頭、日本側から、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を揺るがす動きが続いており、われわれの今日の決定が将来を決定づける重要な局面にある。既存の国際秩序を守り抜くために、同盟を絶え間なく強化し、抑止力を高めていかなくてはならない旨発言。

米側は、自由で開かれたインド太平洋地域を維持するわれわれの能力を支える同盟の役割、任務および能力の強化における並外れた進展を祝福。

◇日米双方は、4月の岸田文雄内閣総理大臣の米国公式訪問が、日米同盟をかつてない高みに到達させる歴史的な訪問であることを確認した上で、同訪問を受け、未来のためのグローバルなパートナーシップを築くというビジョンとともに同盟の指揮・統制の向上、防衛産業および先端技術協力の深化並びに領域横断作戦の強化を含む、新たな戦略的イニシアティブを実現する意図を再確認。

◇米側は、核を含むあらゆる能力を用いた日米安全保障条約第5条の下での日本の防衛に対するコミットメントを改めて表明するとともに、日米安全保障条約第5条が尖閣諸島に適用されることを改めて確認。

共同発表で米軍の態勢に言及

また共同発表では「米国は、平時および緊急事態における相互運用性および日米間の共同活動に係る協力の深化を促進するため、在日米軍をインド太平洋軍司令官隷下の統合軍司令部として再構成する意図を有する。この、再構成された在日米軍は、自衛隊統合作戦司令部の一つの重要なカウンターパートとなることが意図される」として、米軍の運用態勢の強化を明記。

また「日米同盟が厳しい戦略・核環境に直面する中、米国の拡大抑止を引き続き強化するとともに、主に日米拡大抑止協議を通じた拡大抑止およびエスカレーション管理に関する協力を強化することの決定的な重要性を強調。

閣僚は、実質的な戦略レベルの議論を深めるとのコミットメントを示すため、拡大抑止に関する初の日米閣僚会合を開催した」としています。

また、7月3日に米国防総省が発表した米軍の最新鋭戦闘機を日本に配備するとした内容について「日本全土で戦術戦闘機を近代化する米国の計画を歓迎した」としています。

なお、木原防衛大臣は29日、防衛省でオースティン米国国防長官と日米防衛大臣会談を行っています。

日米安全保障協議委員会（日米「2+2」）が開催（外務省Web）

国家安全保障戦略の実現に向けての有識者会議の開催

防衛省は8月2日「防衛力の抜本的強化に関する有識者会議（座長・榊原定征一般社団法人日本経済団体連合会名誉会長）」第2回総会を開催しました。

有識者会議第２回総会（防衛省X）

会議では、安全保障分野における産学官の研究開発について「わが国においても防衛省の研究機関と、産業界、大学・研究機関等、シンクタンクが密接に連携しつつ、先端技術に関するエコシステムを構成していく必要がある」「エコシステムにより、わが国の防衛力向上だけではなく、科学技術力、経済力を含むわが国の国力全体の向上につなげてゆく」との議論がなされています。また防衛省から防衛イノベーションや画期的な装備品等を生み出す機能を抜本的に強化するため、本年10月「防衛装備庁防衛イノベーション技術研究所（仮称）」を恵比寿ガーデンプレイスに創設予定との紹介もありました。

政府は8月6日、重大なサイバー攻撃を未然に防ぐ「能動的サイバー防御」の導入に向け、サイバー安全保障分野での対応能力の向上に向けた有識者会議（座長・佐々江賢一郎元駐米大使）の第3回会合を首相官邸で開き、提言に向け、①官民連携の強化②通信情報の利用③攻撃元への侵入・無害化の各分野についてこれまでの議論の論点整理を行っています。

家族会長奮戦記 88

新潟県自衛隊家族会の歩みと未来

新潟県自衛隊家族会
会長　早川 澄男

自己紹介

新潟県自衛隊家族会長を務めております早川澄男と申します。以前は一会員として活動しておりましたが、平成20年4月に前事務局長の辞任に伴い事務局長に任命されました。

その後、前会長の辞意により、平成23年4月から第7代新潟県家族会（当時は父兄会）会長を務めております。各副会長や新潟地本協力本部長のご協力をいただきながら、13年目を迎えることとなりました。

新潟県の紹介

新潟県は、日本海側唯一の政令指定都市である新潟市を中心に、30の市町村と佐渡ヶ島、粟島などの離島から構成されています。県内は南北に長く、約330㎞にわたる海岸線を有し、5つの県と隣接しています。交通網は新幹線2路線、高速道路と国道各5路線、空港と非常に整備されており、日本海側の重要港湾も存在します。四季がはっきりしており、観光地も豊富です。冬はスキー、春は桜と新緑、夏は海水浴、秋は紅葉が楽しめ、温泉地も多数あり、訪れる方に二重の満足感を提供しています。

本県には、陸上自衛隊の2つの駐屯地、海上自衛隊の1つの基地、航空自衛隊の2つの分屯基地が所在し、わが国の防衛に貢献しています。

新潟県自衛隊家族会

新潟県自衛隊家族会は、7つの地域協議会と28の地区会で構成され、約1500人の会員が所属しています。

定期総会は新潟・中越・上越地区の輪番で開催され、各地区会には年に1回の総会開催が義務付けられています。

この総会では、県家族会の活動方針や会長の方針・要望を徹底し、地方協力本部の各所長にも参加をするとのコミットメントを示すことが重要であるとの意見が多く、アンケート調査を依頼しました。その結果、家族支援協力の必要性を強く感じ、連絡網の構築が最初の一歩と判断しました。

平成28年7月には、高田駐屯地と上越市家族会が共同で家族支援訓練「越後の絆」を実施し、多大な成果を収めました。

これを踏まえ、さらに「越後の絆Ⅱ」を高田駐屯地体育館で実施し、家族支援の目的や必要性について広く共有しました。また、当日使用した要図が「家族支援協力の手引き」に採用されるという名誉を得ました。

今後は、海・空自衛隊の部隊に対する支援態勢をさらに整備し、隊員が安心して職務に専念できる環境を整えてまいります。

結び

新潟県自衛隊家族会は、微力ながらも部隊や隊員から信頼される家族会となるべく、これからも全力を尽くしてまいります。

発行所
公益社団法人自衛隊家族会
〒162-0845
東京都新宿区
市谷本村町5-1
(TEL)03-5227-2468
(FAX)03-5227-2473
購読料１カ月一部110円
ウェブサイト
http://www.jkazokukai.or.jp/
メールアドレス
jkazokukai@jkazokukai.or.jp

主な記事

◇直面する内憂外患の日本列島　1面
◇回想「令和6年能登半島地震対応」　2面
◇令和6年版防衛白書の概要　2面
◇特集「パリ2024オリンピックの戦績」　3面
シリーズ企画
家族会長奮戦記　8面
自衛隊を動かすMC（第4回）、美佐の新国防論　きずな　3面
歌壇・俳壇、健康の扉　6面
シニアの鉄人「相談事例から見るシニアライフの『やり甲斐』」　6面
7面

YouTube
自衛官募集チャンネル
において動画公開中！

陸海空自衛官
0120-063792
【自衛官募集ホームページ】
http://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/

防衛大学校（一般）採用試験のご案内
日本と世界の平和を、一生の仲間と築く。
大学設置基準に準拠した教育に加え、学校独自の防衛学教育や訓練等を行い、広い視野、科学的な思考力、屈強な体躯、豊かな人間性を育むことで、統率力のある幹部人材へと成長していきます。
○受験資格
18歳以上21歳未満の者
高卒又は高専３年次修了者
（共に見込み含む。）
○受付期間
R6/10/17（木）まで
○１次試験日
R6/11/2（土）

防衛医科大学校（医学科・看護学科）採用試験のご案内
いのちと平和を守れる人になる。
最先端の医学・看護学と本校独自の防衛医学・防衛看護学を学び、国内外の様々なフィールドで活躍する人材を育成します。博士（医学）・学士（看護学）の学位を取得する事が可能です。
○受験資格
18歳以上21歳未満の者
高卒又は高専３年次修了者
（共に見込み含む。）
○受付期間
医学科：R6/10/9（水）まで
看護学科：R6/10/2（水）まで
○１次試験日
医学科：R6/10/19（土）
看護学科：R6/10/12（土）

※受験資格、試験内容等の細部については　自衛官募集ホームページより最寄りの地方協力本部にお問い合わせください。